授業科目名・形態	公衆衛生看護学概論　　講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	下園美保子	実務経験の有無	有	開講期	2年前期
科目ナンバリング	N6-2014npmht				

【授業の主題】

少子高齢化、社会格差の拡大による健康格差の助長、災害増加による健康危機管理、国際化による国外のみならず国内にもある国際保健、未知の感染症拡大によるパンデミックなど公衆衛生看護を取り巻く社会は変化に富んでいる。そのため、人々の健康と地域社会の健康を守ることが公衆衛生に求められており、今後予測不可能な変化や多様な健康課題に対応できる看護職の育成は急務である。本授業では、公衆衛生看護学の基本的知識と概観を学ぶと共に、今後展開される様々な公衆衛生看護領域の学習に必要な基本的姿勢を学修する。

【到達目標】

1）公衆衛生看護学の基本理念が説明できる。
2）公衆衛生看護学が対象とする人々と場、それらの特徴に応じた展開方法が説明できる。
3）環境と健康の関連について説明できる。
4）公衆衛生看護における倫理が説明できる。
5）保健師の専門能力が説明できる。

【授業計画・内容】

第1回　オリエンテーション、公衆衛生看護の基本理念
第2回　公衆衛生看護の歴史
第3回　公衆衛生看護の対象と場
第4回　予防の概念と健康に影響する社会的要因
第5回　健康格差と健康の社会的決定要因
第6回　環境の変化と健康課題
第7回　公衆衛生看護活動の展開方法
第8回　保健師の専門能力
第9回　公衆衛生看護における倫理①
第10回　公衆衛生看護における倫理②
第11回　国際保健
第12回　公衆衛生看護活動に活用できる理論・モデル①
第13回　公衆衛生看護活動に活用できる理論・モデル②
第14回　公衆衛生看護と研究
第15回　まとめ

【授業実施方法】　基本的には講義形式で行うので主体的に授業に参加すること。倫理の回では、テーマに沿ってグループ単位でディスカッションを行い、その後発表する。毎授業後にリアクションペーパーを提出する。

【事前・事後学習】

＜事前学習＞講義内容に関する事前学習を毎回2時間以上行うこと。
（教科書に出てくる用語の意味を調べ、公衆衛生看護に関連する社会的背景を理解しておく）
＜事後学習＞講義内容を踏まえ、到達目標に照らして、復習を毎回2時間以上行うこと。
（講義ノートの整理、教科書の該当箇所の再読、参考資料の確認、講義内容と公衆衛生看護活動の関連性の考察）

【主な関連する科目】　「公衆衛生学」「エイジング論」「保健・医療と法律」

【教科書等】　保健学講座　公衆衛生看護学概論．メジカルフレンド社
公衆衛生看護学テキスト第1巻　公衆衛生看護学原論　第2版．医歯薬出版
図説　国民衛生の動向　2025/2026．厚生労働統計協会

【参考文献】　新版　保健師業務要覧　第4版　2023年版．日本看護協会出版会
標準保健師講座①　公衆衛生看護学概論．医学書院

【成績評価方法】　筆記試験80%、課題提出10%、授業態度等10%

【実務経験及び実務を活かした授業内容】　主に行政保健師としての実務経験で得られた公衆衛生看護活動を通じて、実例を織り交ぜながら、学生自らが考え習得できるよう講義内容を工夫する。

【学生へのメッセージ】

本講義を通じて、公衆衛生看護活動の緻密さとダイナミックさ、保健師という職務の困難さと楽しさを感じてください。また、分かりにくいと言われる保健師業務を具体的にイメージしながら受講してください。